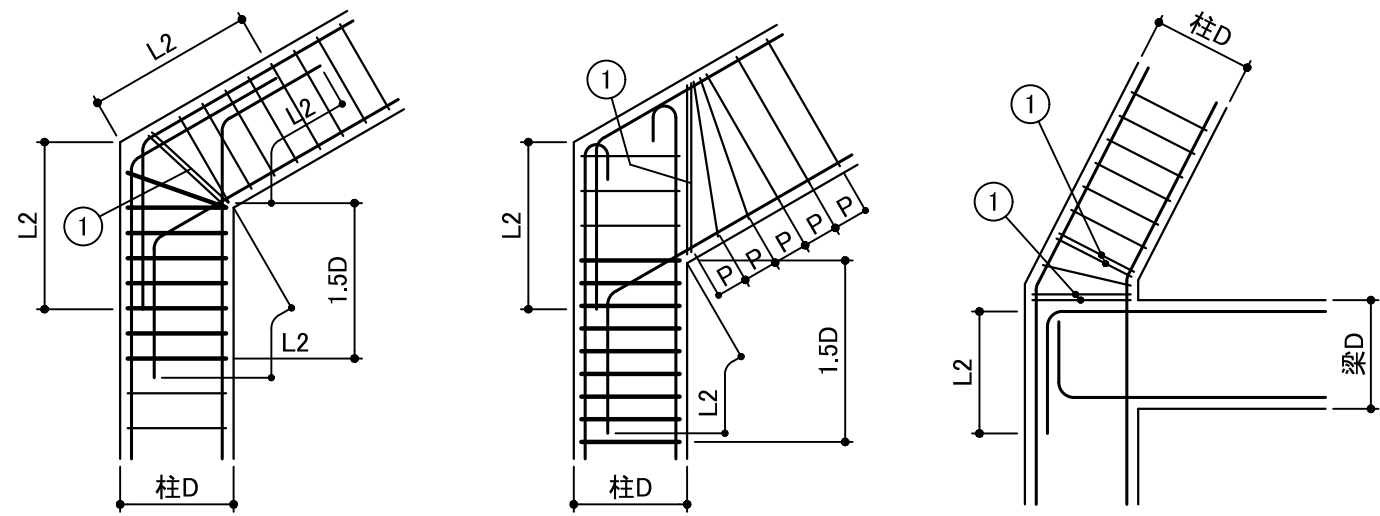


(4)斜め柱・斜め梁

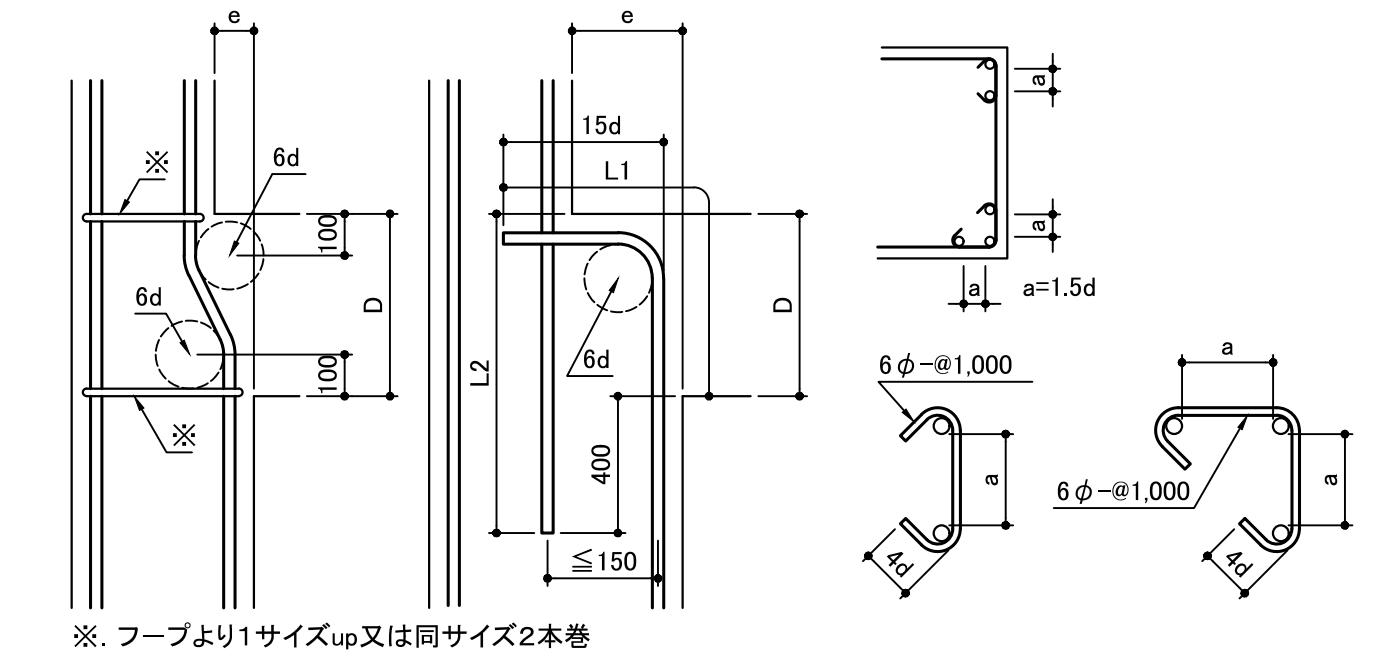
a) 柱幅と斜材(柱又は梁)幅が同一 b) 柱幅と斜材幅が異なる c) 柱脚で斜材となる



1. 1.5D の範囲の柱のフープは1サイズ太い鉄筋、又は2本巻きとし@100以下とする。
2. ① の鉄筋は フープ(スターラップ)の1サイズ太い鉄筋を2本巻きとする。

(5)絞り

(6)寄せ筋の保持



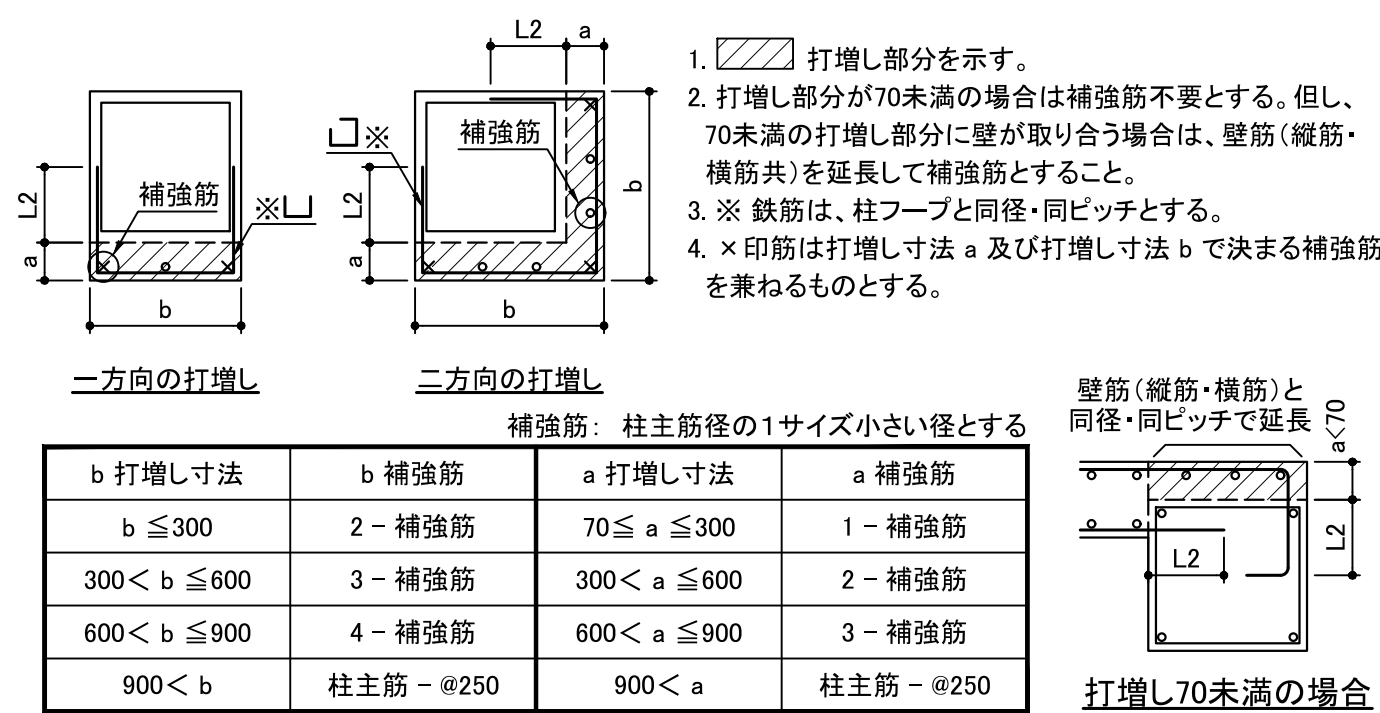
※. フープより1サイズup又は同サイズ2本巻

$e \leq D/6$

$e > D/6$

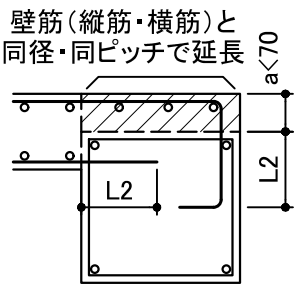
(7)打増し補強

(打増しするときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと)



補強筋: 柱主筋径の1サイズ小さい径とする

b 打増し寸法	b 補強筋	a 打増し寸法	a 補強筋
b ≤ 300	2 - 補強筋	70 ≤ a ≤ 300	1 - 補強筋
300 < b ≤ 600	3 - 補強筋	300 < a ≤ 600	2 - 補強筋
600 < b ≤ 900	4 - 補強筋	600 < a ≤ 900	3 - 補強筋
900 < b	柱主筋 - @250	900 < a	柱主筋 - @250



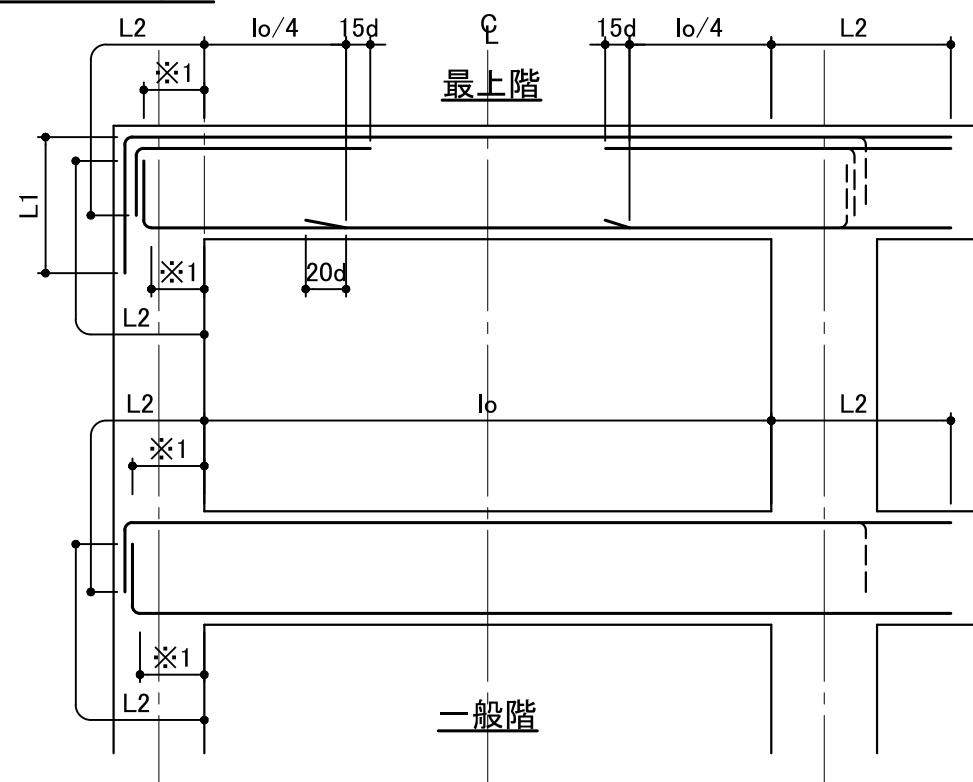
打増し70未満の場合

6. 大梁、小梁、片持梁

(1)梁の定着

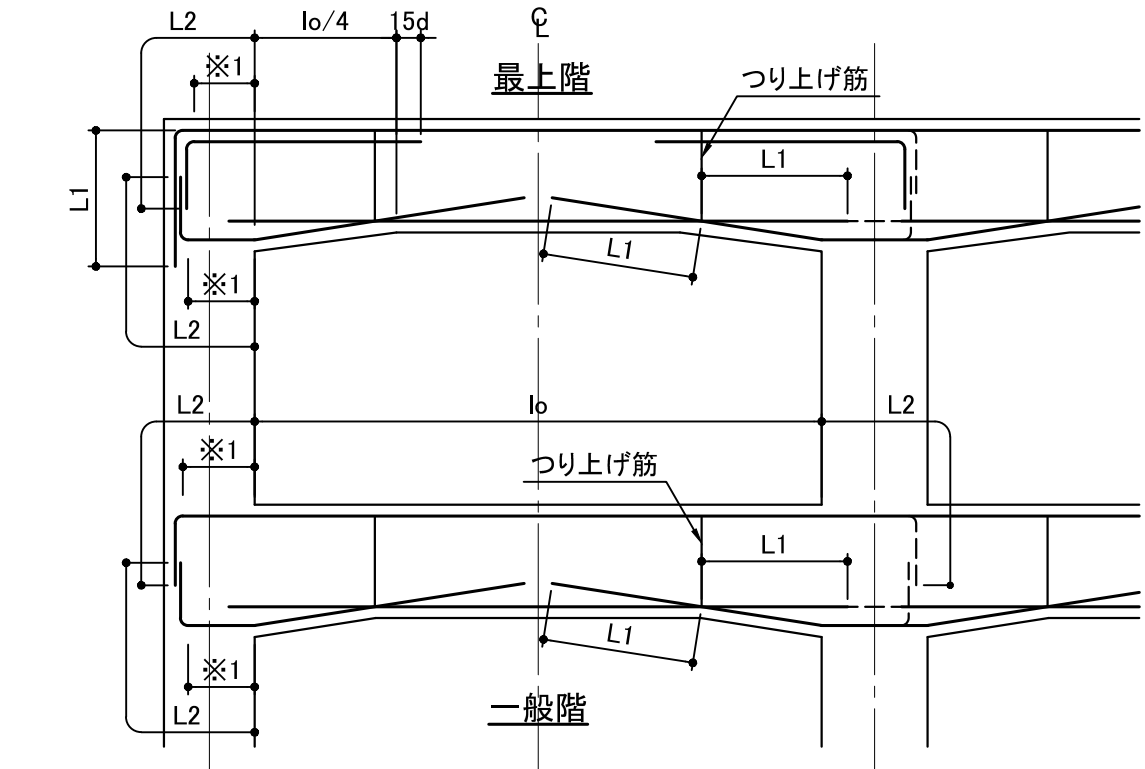
a) 大梁

ハンチのない場合



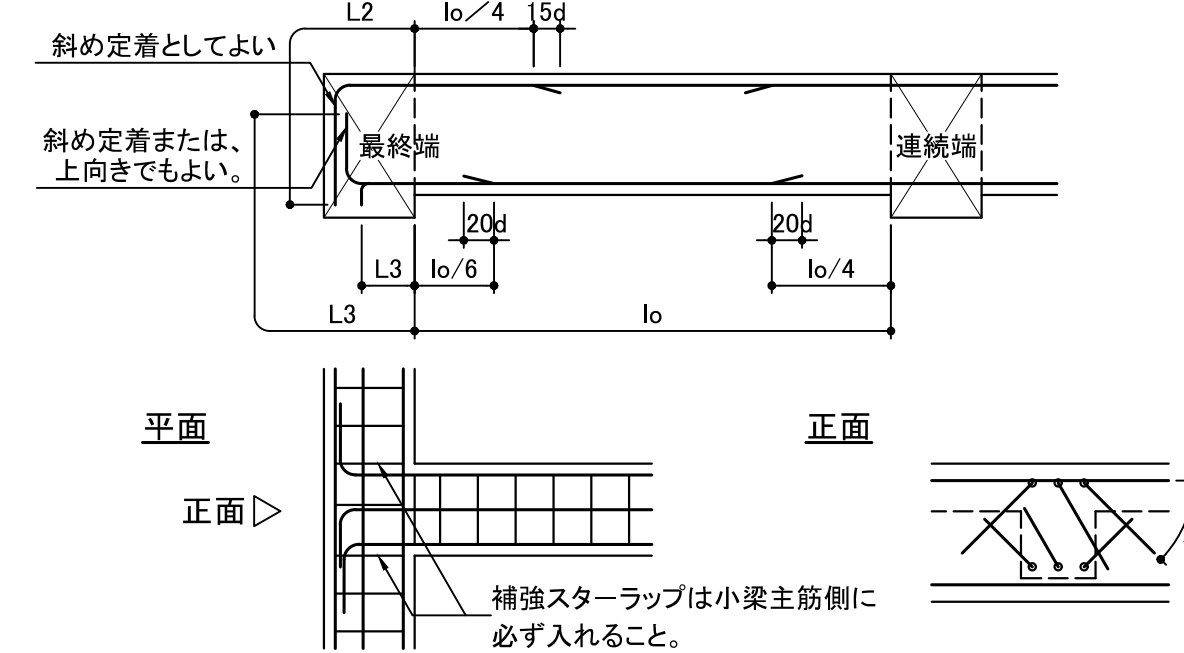
※1. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4以上かつ La 以上)

ハンチのある場合

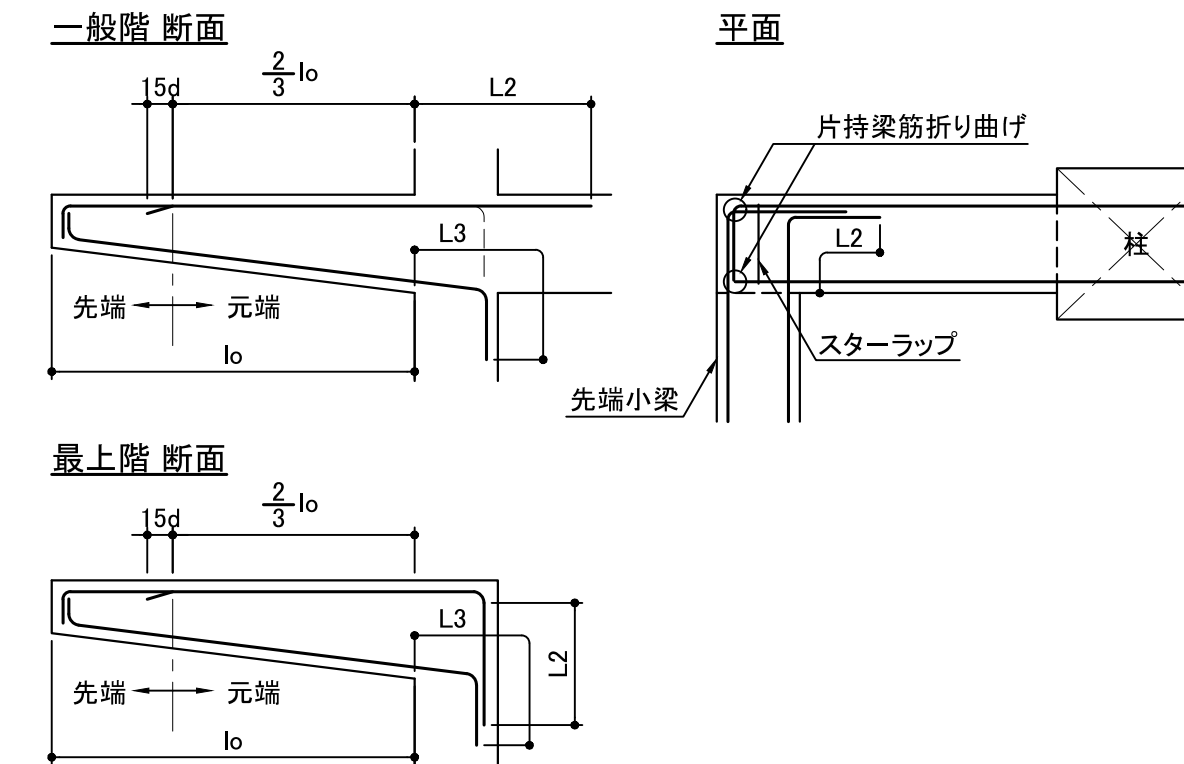


※1. 梁主筋のみ込み長さ(柱せいの3/4以上かつ La 以上)

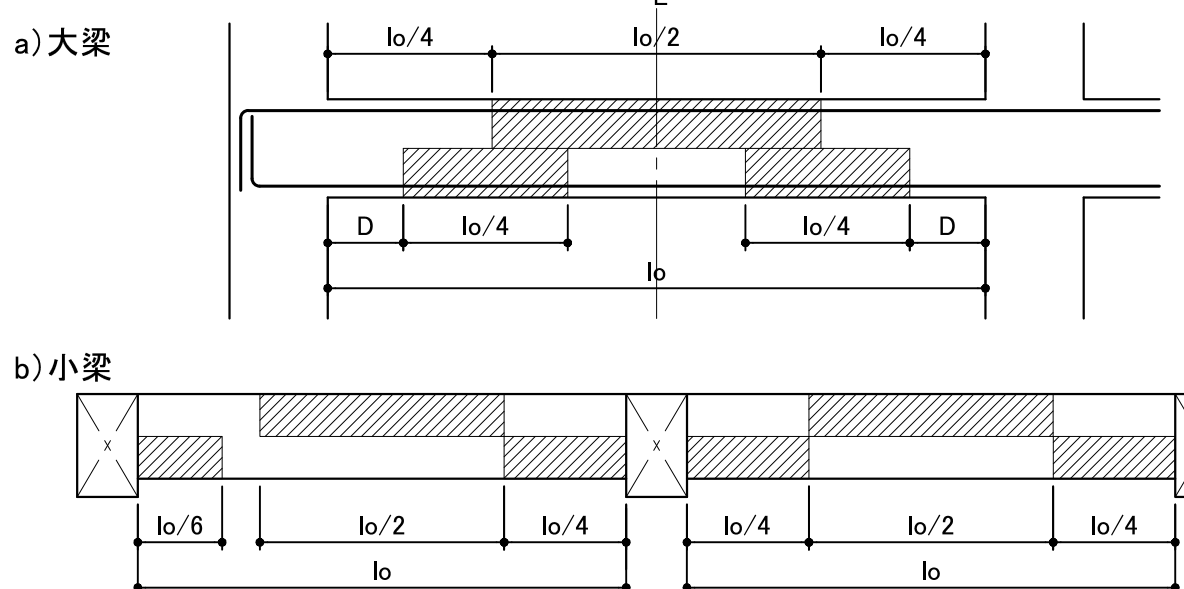
b) 小梁



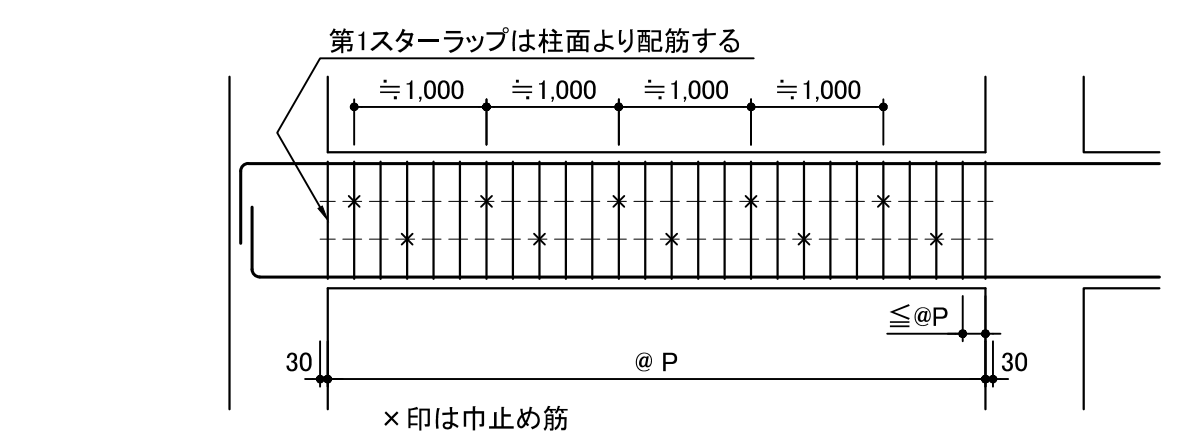
c) 片持梁



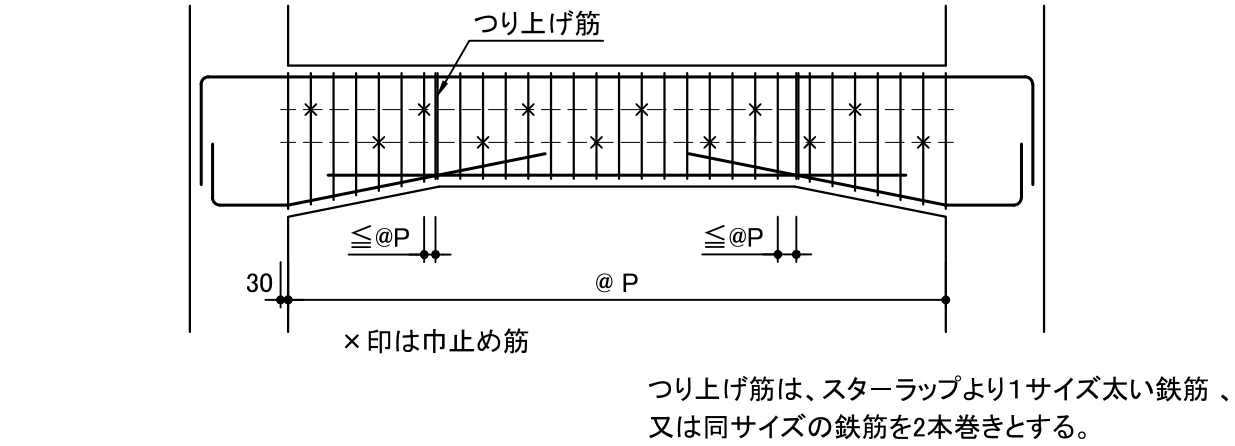
(2)梁の継手



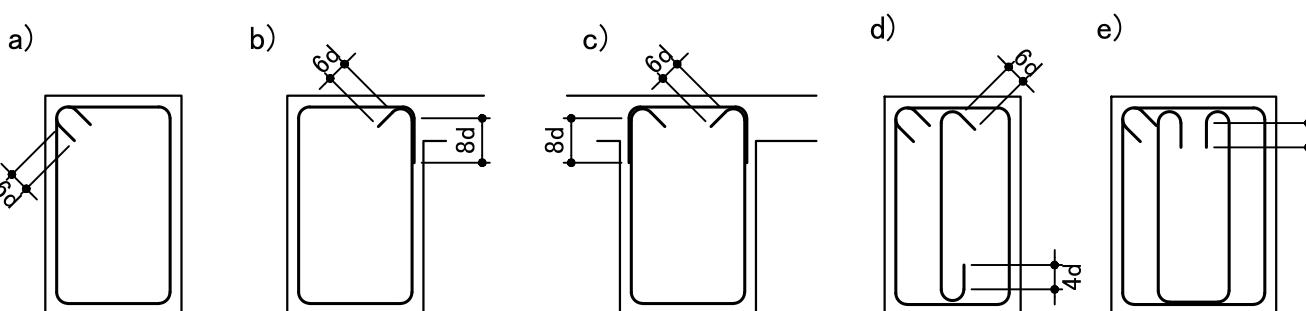
(3)スターラップ、腹筋、巾止め筋の配置



ハンチのある場合



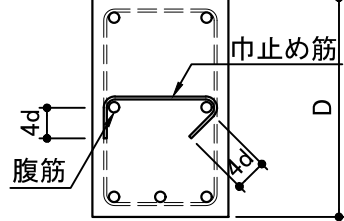
(4)スターラップの型



1. 原則として a) のフック先曲げとする。片側スラブ付く型>梁で b) 両側スラブ付く型>梁で c) 又は b) とすることができる。
2. フックの位置は a) にあつては交互、b) にあつてはスラブ側とする。

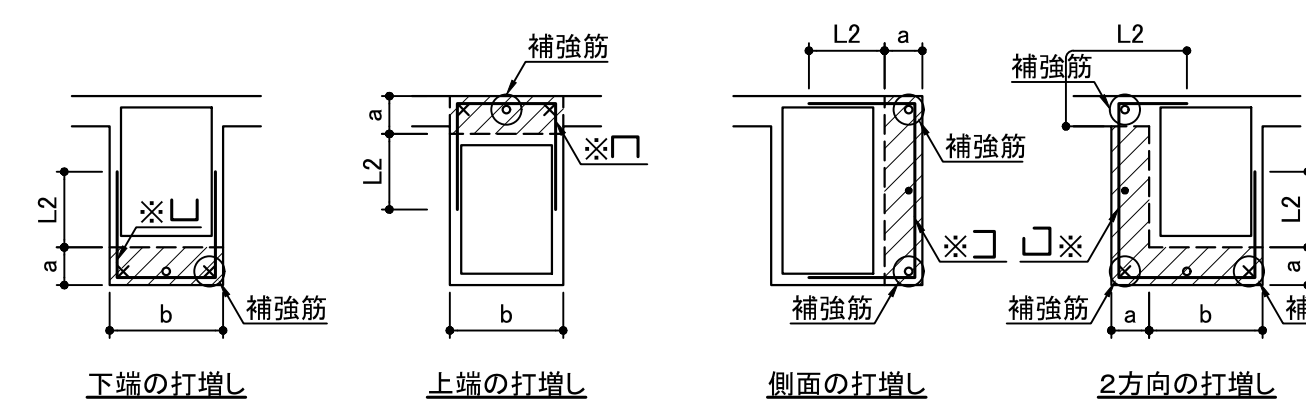
(5)巾止め筋の本数、加工

腹筋	D < 600	600 ≤ D < 900	900 ≤ D < 1,200	1,200 ≤ D < 1,500
巾止め筋	不要	2-D10 (1 段)	4-D10 (2 段)	6-D10 (3 段)



(6)打増し補強

(打増しするときは事前に設計者、及び工事監理者と打ち合わせのこと)



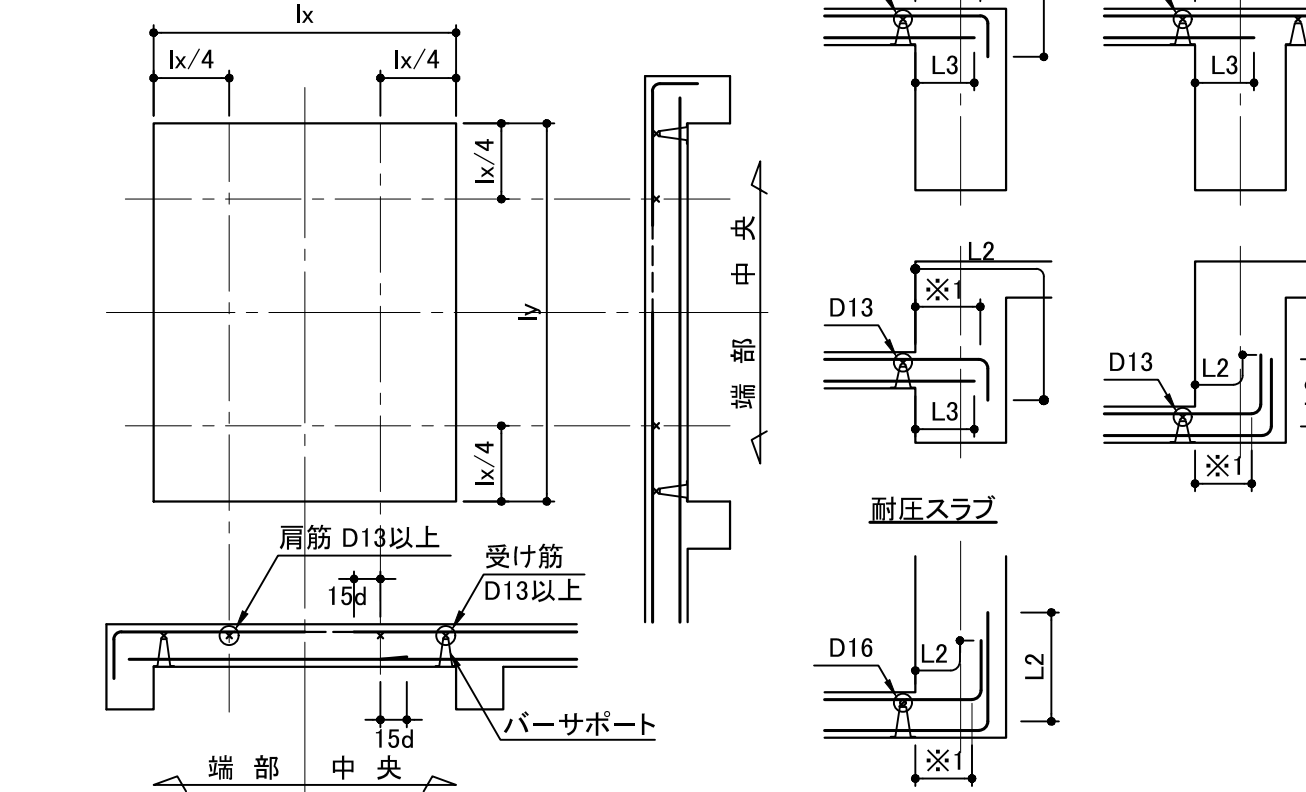
1. 打増し部分を示す。
2. 打増し部分が70未満の場合は補強筋不要とする。但し、70未満の打増し部分に壁が取り合う場合は、壁筋(縦筋・横筋共)を延長して補強筋とすること。
3. ※ 鉄筋は、スターラップと同径・同ピッチとする。
4. × 印筋は打増し寸法 a 及び打増し寸法 b で決まる補強筋を兼ねるものとする。

b 打増し寸法	b 補強筋	a 打増し寸法	a 補強筋
b ≤ 300	2 - 補強筋	a ≤ 300	1 - 補強筋
300 < b ≤ 600	3 - 補強筋	300 < a ≤ 600	2 - 補強筋

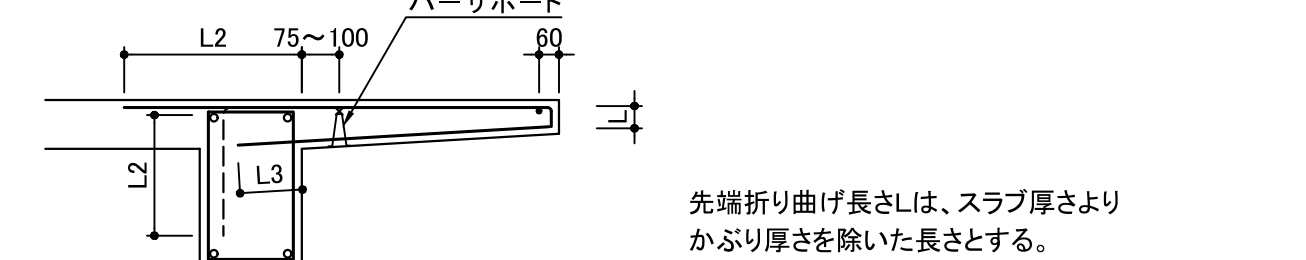
7. スラブ

(1)スラブの定着

a) 一般スラブ



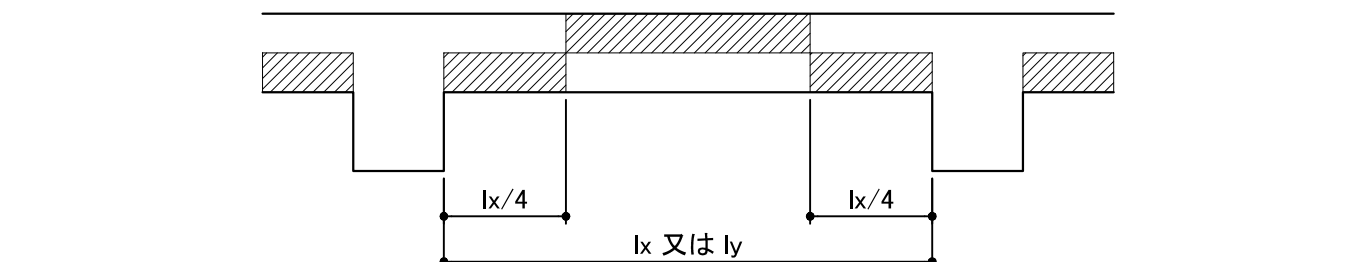
b) 片持スラブ



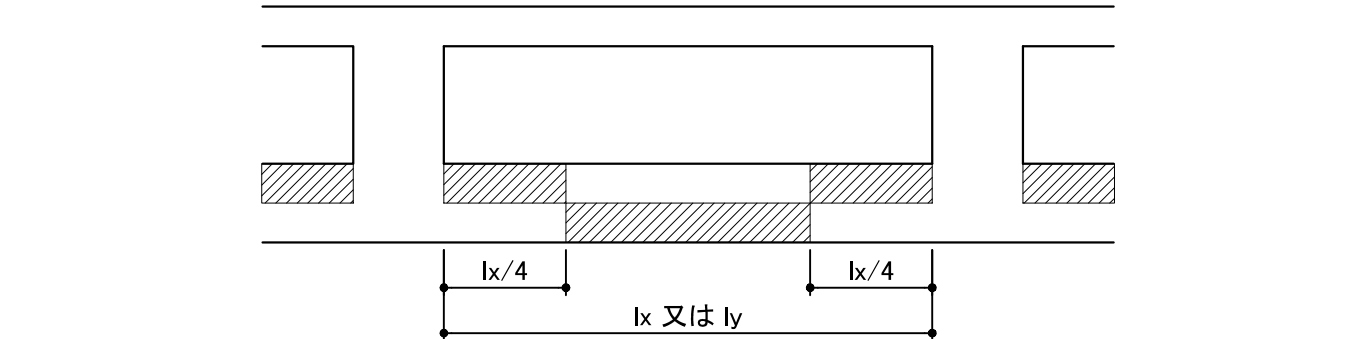
先端折り曲げ長さLは、スラブ厚よりかぶり厚さを除いた長さとする。

(2)スラブの継手

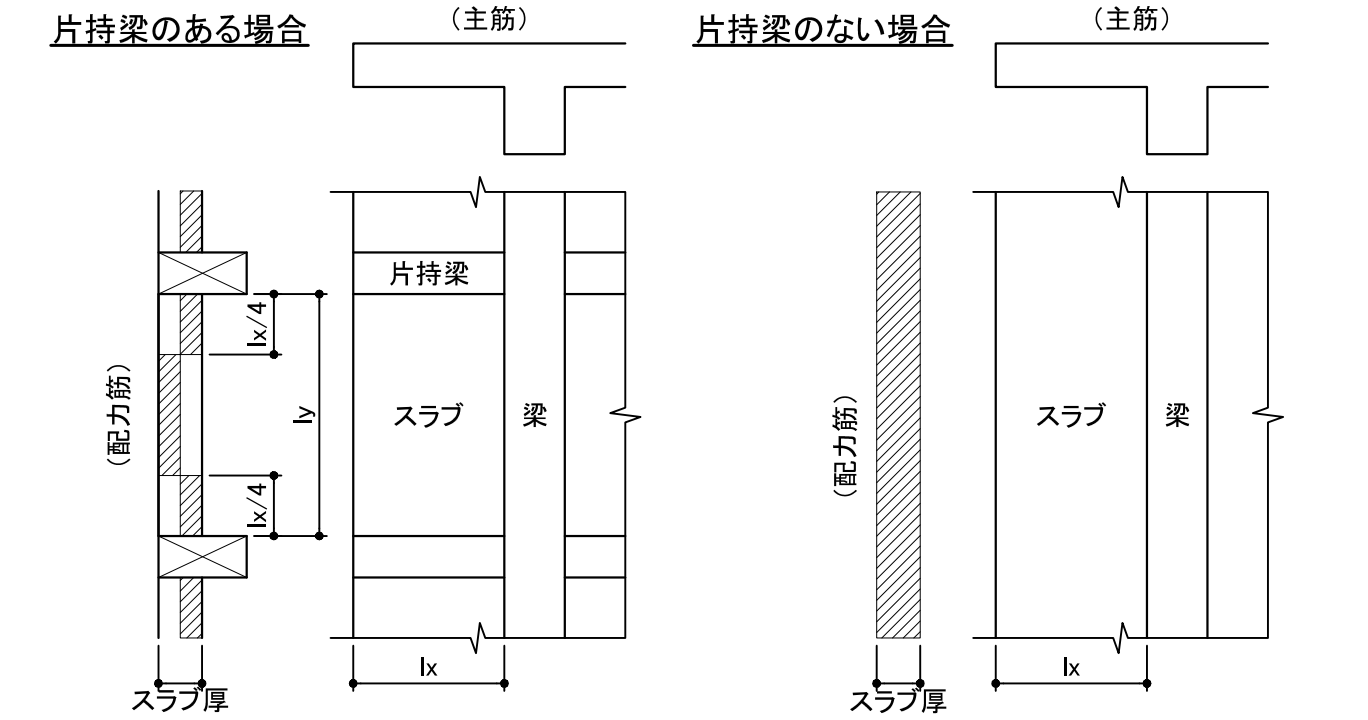
a) 一般スラブ



b) 耐圧盤(べた基礎)

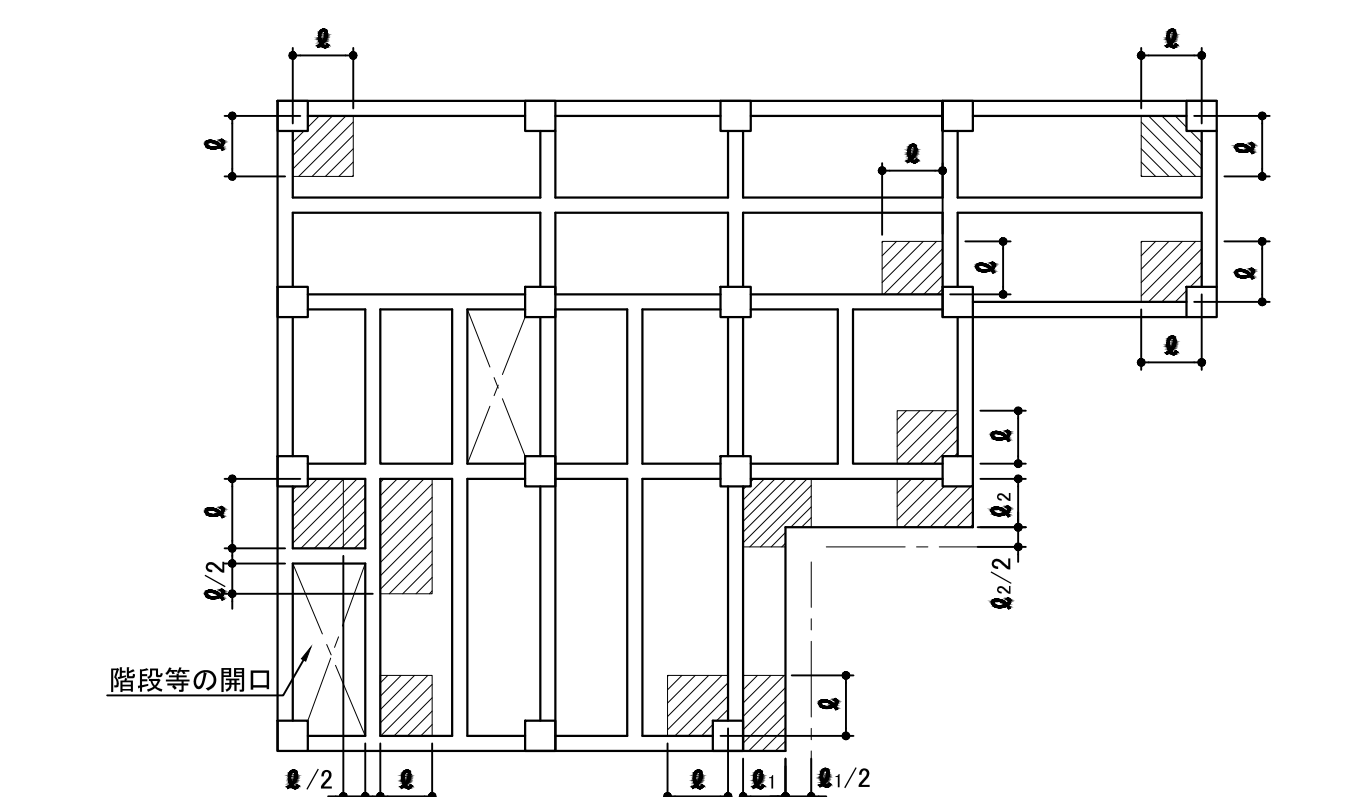


c) 片持スラブ



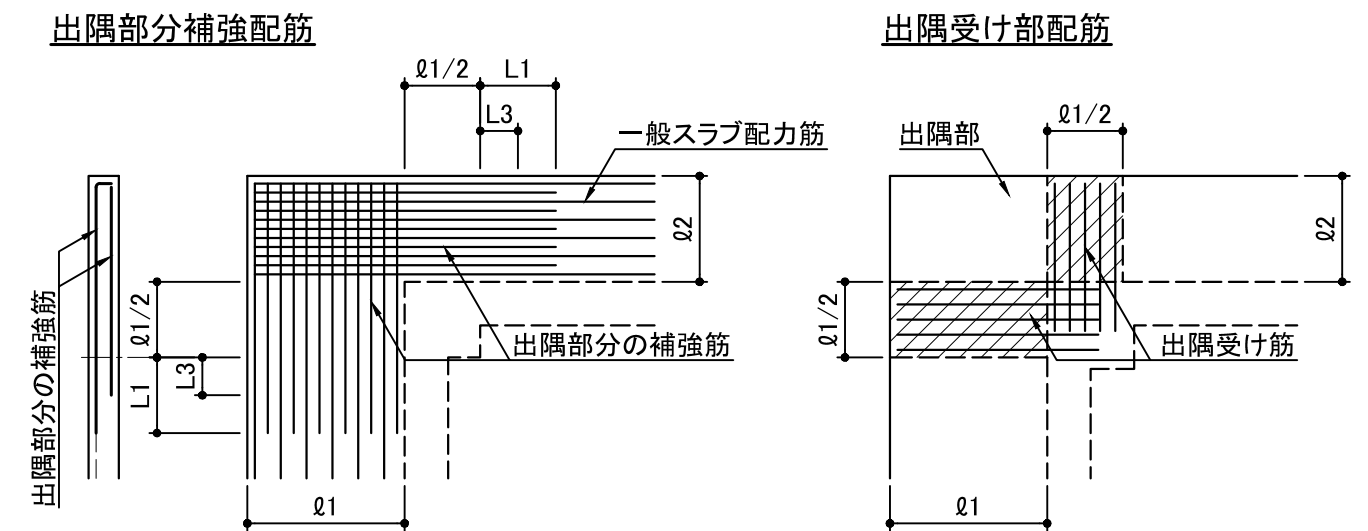
1. どちらの場合も、片持スラブ主筋には原則として継手を設けない。

(3)屋根スラブ入隅出隅部の補強要項



1. 部分のスラブは上端筋の間隔が @100 以下となる様に、スラブ筋と同径筋により補強する。
2. 3 は 3m 又はスラブの短辺内法スパンの小さな方とする。
3. 床面積 100m2 以下は補強不要とする。

(4)片持スラブ出隅部の補強要項



1. $\phi 1 \geq \phi 2$ とする。
2. 出隅受け部配筋は柱又は梁に L1 定着する。

